

- 編著：独立行政法人 労働政策研究・研修機構
- 対象：中学・高校・高専・専門学校・短大・大学・職業訓練校・職業相談機関等
- 実施所要時間：約45分
- 測定するもの：6つのタイプの職業分野への興味・関心、自信／3つの基礎的志向性

● 興味と自信、基礎的志向性

職業レディネス・テスト(VRT)は、「職業に対する興味・自信の傾向(職業志向性)」と「日常生活での興味(職業(基礎的志向性))」をとらえるものです。自らの興味・関心や日常生活での志向性を手がかりにして、自分はそのような特徴を持っているのかを考え、自覚し、進路や将来の職業・キャリアと関連づけた探索ができます。

興味・関心は、人それぞれの個性を反映し、表すものであり、価値観、態度などとともに、パーソナリティを形成する要素の一つです。

● RIASEC——ホランドによるパーソナリティ・タイプの6類型

アメリカの心理学者J・L・ホランドは、個人のパーソナリティ・タイプをR・I・A・S・E・Cという6類型に分類し、また人が働く環境にもその6類型のモデルがあると考えました。

「同じ職業環境にいる人々は共通するパーソナリティを持つ傾向がある。人は、自分の持っている技能や能力が生かされ、価値観や態度を表現でき、自分の納得できる役割や課題を引き受けさせてくれるような環境を求めるとし、実際は人間は多種多様ですが、六つに類型化することで職業選択の際のヒントに活用できると考えたのです。VRTの興味・自信度の測定には、その6類型の尺度が用いられており、基礎的志向性にはD(対情報)・P(対人)・T(対物)の3尺度が用いられています。

● 自分の個性、自分の将来について考える

VRTは基本的に中学生、高校生を主な対象としてつくられているため、各項目の表現もわかりやすく、また興味・自信の傾向から自分の特徴を把握するものなので、受検者に心理的な抵抗をほとんど感じさせることなく実施できます。

具体的な職業選択にはまだピンと来ないとしても、中学生の段階で自分の将来について考えてみる機会を持つことは大切です。自分の個性はどのようなものか、そしてこれから先どのような進路、進学先を選べばいいのか、どのような生き方をし、どんな人生を送りたいのかといったことについて考えるきっかけとなります。その際、中学生はまだ職業についての知識が少なく、職業意識も希薄なため、まずは社会にどんな職業があるのかを知ることが重要です。

VRTは、質問項目がそれぞれの職業の簡単な職務記述になっており、生徒にとってそのまま職業情報として役立ちます。そしてワークシート(「結果の見方・生かし方」)を活用し結果の整理・解釈を進め、職業について意識し、考えながら、興味の範囲や視野を広げていくことができるようになっていきます。

この時期の職業興味は、様々な経験や活動によって大きく変化していく可能性が含まれているため、結果を固定的に解釈せず、将来を見据えたときにどのような段階にあるかという視点を重視したほうがよいでしょう。

職業レディネス・テストの歴史

● 初版——昭和47(1972)年公表
従来の検査のように就職・進学先とのマッチングを重視するのではなく、進路発達とその促進を援助する資料、教材を提供し、一人ひとりの個性を把握するための検査と位置づけられた。

● 第2版「新版 職業レディネス・テスト」——平成元(1989)年公表
初版の開発意図を引き継ぎながら、VPI職業興味検査の日本版の開発などをとおして蓄積されたホランドの職業選択理論の考え方が導入された。

● 第3版——平成18(2006)年公表
換算表が中学生用と高校生以上用に分けられた。また、ワークシート「結果の見方・生かし方」が開発され、生徒が自己理解を深め、自身の興味の特徴と職業との関連を理解する機会を持てるようになった。

● 信頼性・妥当性の検討

——平成30(2018)年実施
検査を構成する3つの下位検査(A・B・C検査)の尺度としての信頼性および第3版で用いられている中学生、高校生の換算規準の妥当性の検討が行われ、信頼性・妥当性ともに維持されていることが確認された。

現在は、中学・高校に加え、大学・短大、専門学校等の教育機関および若年者向けの就職支援機関で広く実施され、職業意識の形成や進路選択に役立てられている。

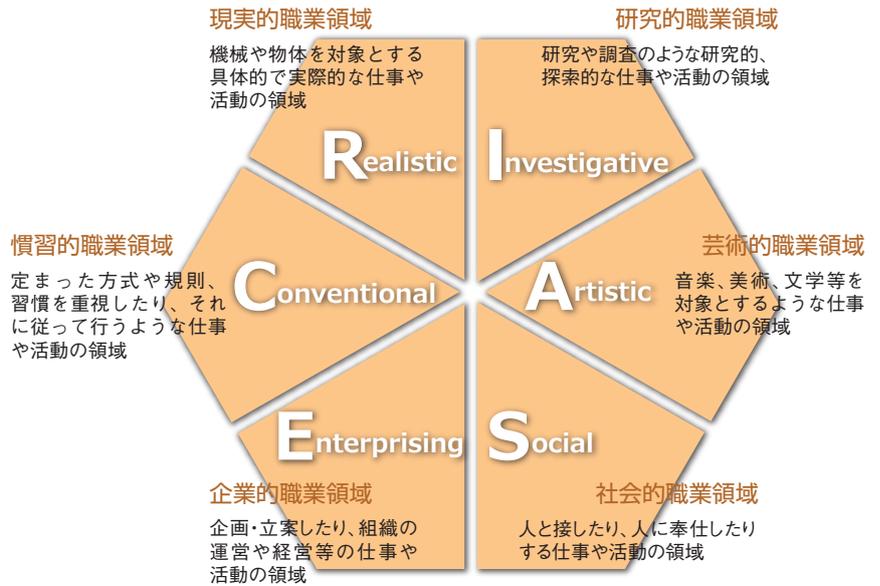
■ 3つの検査による構成



職業・仕事の内容を表す54項目に対して、A検査は「やりたい」「どちらともいえない」「やりたくない」、C検査は「自信がある」「どちらともいえない」「自信がない」の各3段階で答えます。

ホルランドの職業選択理論に基づくR・I・A・S・E・Cの6つの職業領域について、A検査では生徒の職業興味、C検査では職務遂行の自信度が測定され、プロフィールで表示されます。

- 1 部品を組み立てて機械を作る。
- 2 古い地层から化石や骨を集め、恐竜や昔の生き物の生活を調べる。
- 3 家具や照明など、部屋のインテリアのデザインをする。
- 4 保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする。
- 5 自分の店を経営する。
- 6 文字や数字を、コンピュータに入力する。
- 7 火薬を使って花火を作り、安全に打ち上げる。
- 8 環境をよくするために大気や水の汚れを測定し、分析する。
- 9 小説を書き、出版したり、雑誌に載せたりする。
- 10 客の状態に合わせて、指圧やマッサージなどを行う。
- 11 テレビやラジオの番組を企画し、番組づくりを取り仕切る。
- 12 帳簿や伝票に書かれた金額の計算をする。
- 13 木材を加工し、組み立てて、家を作る。
- 14 農業試験場で、農作物の品種改良の研究をする。
- 15 人物や風景、物の写真をとり、雑誌やポスターに発表する。
- 16 ツアー旅行に同行し、宿や観光の手配など参加者の世話をする。
- 17 客を集めるため、広告や催し物などを企画する。
- 18 文字や数字を、書類に正確に記入する。
- 19 火事の現場に駆けつけ、逃げ遅れた人を助けたり、消火活動を行う。
- 20 海水の成分や海流について調査研究する。
- 21 テレビドラマや映画のシナリオを書く。



▲実際の質問項目



日常生活行動について記述した64項目に対して「あてはまる」「あてはまらない」で答え、職業への興味・関心の基礎となる志向性を測定します。

結果はD・P・Tの3つの方向性によるプロフィールで示され、基礎的志向性が同じタイプでも、サブタイプによりさらに細かく興味の特徴をみることができます。

D 対情報志向
各種の知識、情報、概念などを取り扱うことに対する志向性

- D1 情報を集める
- D2 好奇心を満たす
- D3 情報を活用する

P 対人志向
主として人に直接かかわっていくような活動に対する志向性

- P1 自分を表現する
- P2 みんなと行動する
- P3 人の役にたつ

T 対物志向
直接、機械や道具、装置などのいわゆるモノを取り扱うことに対する志向性

- T1 物をつくる
- T2 自然に親しむ



- 1 短い間たくさんの情報を集めるのが得意だ。
- 2 話し合いの場ではよく発言する方だ。
- 3 指先を使って物を組み立てるのが得意だ。
- 4 本を読むのが好きだ。
- 5 グループで行動するのが好きだ。
- 6 自分で野菜や果物を栽培したい。
- 7 計画的に物事を進めるタイプだ。
- 8 友だちや家族の役に立つとうれしい。
- 9 情報を集めるのが好きだ。
- 10 人前で発言するのが得意だ。
- 11 工作や物作りが好きだ。
- 12 図書館や本屋によくでかける。
- 13 友だちは多いほど楽しい。
- 14 動物の飼育や植物の世話が好きだ。
- 15 何かを始めるときは計画を立ててから取り組む。
- 16 人が喜んでいるのを見ると自分もうれしくなる。
- 17 流行に関する情報は雑誌やインターネットでチェックする。
- 18 場の雰囲気盛り上げるのが得意だ。
- 19 手先が器用だと思う。
- 20 テレビではニュースや報道番組をよく見る。
- 21 グループで作業するような授業は楽しい。
- 22 牧場や農場で働いてみたい。

▲実際の質問項目